

# お一人さまの伴走者が孤立を防ぐ 地域で「気付いて繋ぐ」取り組みを

超高齢社会を迎えた日本に於いて大きな課題の1つとなっているのが、身寄りの無い単身高齢者「お一人さま」への支援だ。お一人さまは社会から孤立しがちなだけでなく、身元保証人がいないと、入院や施設への入所を断られるケースが多い。受け入れられた場合でも、病院や施設側は医療費や利用料の滞納等の際の対応に悩みを抱えている。国や自治体も新たな制度の創設等の対策を検討しているが、公的な支援の限界への指摘も有る。身寄りが無い人への支援について主に福祉の面から研究している日本福祉大学福祉経営学部教授の藤森克彦氏に、お一人さま支援の課題や今後の対策について講演頂いた。



衆議院第一議員会館 国際会議室（2026年3月18日開催）



日本福祉大学福祉経営学部 教授 藤森 克彦氏

## 挨拶



**原田 義昭氏**「日本の医療の未来を考える会」最高顧問（元環境大臣、弁護士）

日本は超高齢社会を迎えましたが、お一人さまの問題を解決しなければ、国民は安心して老後を迎えられません。これ迄真面目に国の発展の為に働いてきた人達が最後のステージを迎えた時に、国がしっかりと面倒を見るのは当然の事です。そうした意味で、お一人さまの問題は政治の問題であり、国や自治体等が有効な対策を講じなければなりません。



**東 国幹氏**「日本の医療の未来を考える会」国会議員団メンバー（衆議院議員、自由民主党副幹事長）

日本社会は主に農村の集落から形成され、やがて都市型社会となりましたが、戦後暫くは3世代同居とい...  
詳しくはホームページをご覧ください

続きを読むには購読が必要です

